

一周年に寄せて

VG槻輪 会計

VG槻輪の入会のきっかけは、高槻の市政だよりで、参加呼びかけをしていた「まちづくり塾」でした。

当初は、5人だけの集まりで、会員が役員にならざるを得なくて、未経験乍ら会計になりましたが、お世話をかけています。

何も実践出来た事は有りませんが「わがまち紹介」で見学を重ねていくうちに、これまでよそ者の感覚で捕らえていた高槻の町にも、だんだん楽しみや親しみが出てきて、次回を期待するようになりました。

私に田舎のふるりの思い出があるように、当地で生まれ育った娘や孫にも、高槻がふるりになります。良い思い出が残るといいなと思います。日常生活の中で地域との接点により明るい温かい、人間関係が保たれ良いまちづくりが、行われると子供たちの成長の過程にとっても良い影響を与え

られると思います。微力ながら、私もまちづくりに寄与出来ればと思います。

見学会も、自由参加とは云え、毎回見かける顔も多く、会員相互の親睦づくりにも役立ち、今後の活動へ広がっていくと考えます。

槻輪メンバーの方々、特に中心になり全ての運営に当って御尽力下さったOさん、会報づくりに御尽力下さったNさん。投稿して頂いた方々。一年間誠に有り難う御座いました。

一周年を振り返り 新たな活動を！ VG槻輪 書記

高槻市市民協働部コミュニティ推進課、市民公益サポートセンター管理運営部委員会主催に依る「まちづくり塾」の講座が平成16年8月・9月と計5回開催され受講した有志が集まり数回懇談の結果、まちづくり塾OBの槻輪（きりん）と名づけ平成16年11月に発足した。

高槻は戦後、山間部、平野部等の整地が始まり、ベッドタウンとして急速に人口が増えた。祖先からの住民と他府県から転居して来た人達に依り次第に共存の道を辿り中核市に迄発展した。



槻輪の会員には、自宅と職場の往復が主で、わがまちの良所、短所及び深く知る機会が少なかつた。行事として先ず歴史の史跡、公共設備等の探索を始める事から始めた。長年この町に在住して、この町の成り立ちに詳しい人達も改めて「21世紀のこの町」を巡って種々の発見を得る事が出来た。歴史に因んだ街道民家、母なる河の淀川、その支流、北摂の山々から流れる清流、企業、集合住宅、個々の新旧住宅を目にし

て言い難い驚きと感動を覚えた。

これからの活動として、出身地は夫々異なっても縁あってこの町に住み第二の古里として、全員一同種々の知識と体験を持ち寄り、懇談を積み重ねて、よりよい町を後世に残して行きましよう。

それ等を実践する為には、個々の持てる技術、知識を最大限活用し、まだまだ使用可能な古い家具類、電化製品、自転車類、家庭からの廃油、生ごみ等を再利用し、資源保護を大切にすること、散乱している道ばたのゴミ、タバコの吸い殻、各河川の清掃、自然保護なども考えましよう。

主旨に賛同して頂ける方は、ご自身の知識、能力、技術をVG槻輪で発揮して頂きたい。皆様のご賛同をお待ちしています。

一周年を迎えて VG槻輪 監査

昨年度高槻市が主催した第4期の「高槻まちづくり塾」を受講し、そして

最終日を迎えた日のことであるが、現役をリタイアしこれからの有り余る時間を、生意気なようであるが、何か世の中に役立つようなことに使えれば、と考えていた。

しかし自分にとって受講を終えた充実感はなく、何か物足りなさを感じた。

もともとボランティア活動についての知識はあまり持ち合わせてはなかったが、折角のこの機会に多分同じ志を持った方々であろうと思われるこの集まりを逃がす手はないと考え思い切つて声かけをしたところ数人の賛同者を得、その場で話し合いの場を持ったのがグループ結成の始まりであったと記憶している。

さて、今日わが国は官民こそって改革の号令の元に、政府においては小さな政府を目指し民営化を進める一方、地方行政においても厩大な借金を抱える財政状況の脱却を目指し、事務事業の民間活力の導入によりスリム化が積極的に推し進められていきます。

また、民間企業においては、勝ち組、負け組の

色分けが一層鮮明になってきており、官民を問わずこれまでの古い考えや体質のままでは生き残れない世情になってきていると思われます。

今後は、私達の住む高槻市においても規制緩和が進められ、NPOを含む民間の役割が重要視されるものと思われ、中でも法律に規制されること

が少なく社会のニーズに応えられ、かつ小回りの効く活動が可能なNPOは大きく期待されていくものと考えています。現在、本会の会員も20名を越え、活動可能な組織体としての体裁も整って来たこともあり、2年目以降は全員の英知を結集して地域に根付き、喜ばれる活動を目指していきたいものであります。

